

大山論文
バンダジェフスキー論文関係

内部被曝勉強会-資料-3

6月27日

バンドジェフスキー論文

Table 2

Clinical findings at study entry.

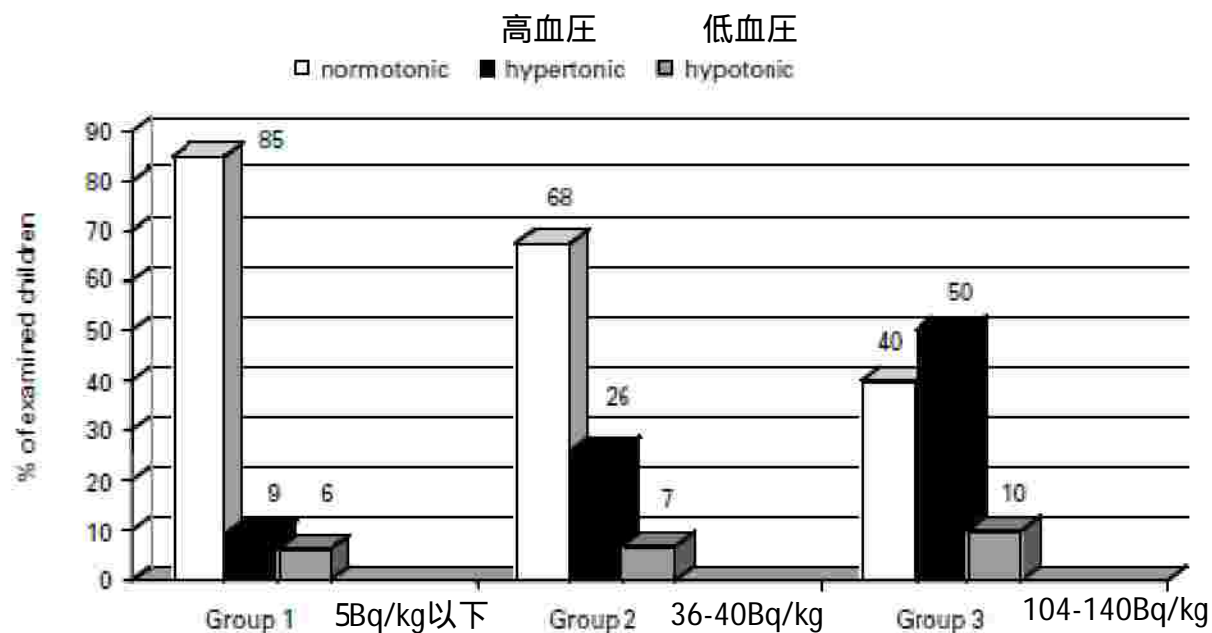
研究の端緒となった医学的所見

	主観的不快	動脈高血圧	心臓の異常音	心電図の変化
Groups (N)	subjective complaints N (%)	arterial hypertension N (%)	abnormal heart sounds N (%)	altered ECGs N (%)
Group 1 (n = 33)	10 (30%)	3 (9%)*	16 (48%) ^a	17 (52%)*
Group 2 (n = 31)	12 (39%)	8 (26%)	26 (84%)	26 (84%)
Group 3 (n = 30)	19 (63%)	15 (50%)	27 (90%)	28 (93%)

* The difference between group 1 and group 2 or group 3 was statistically significant (p < 0.05).

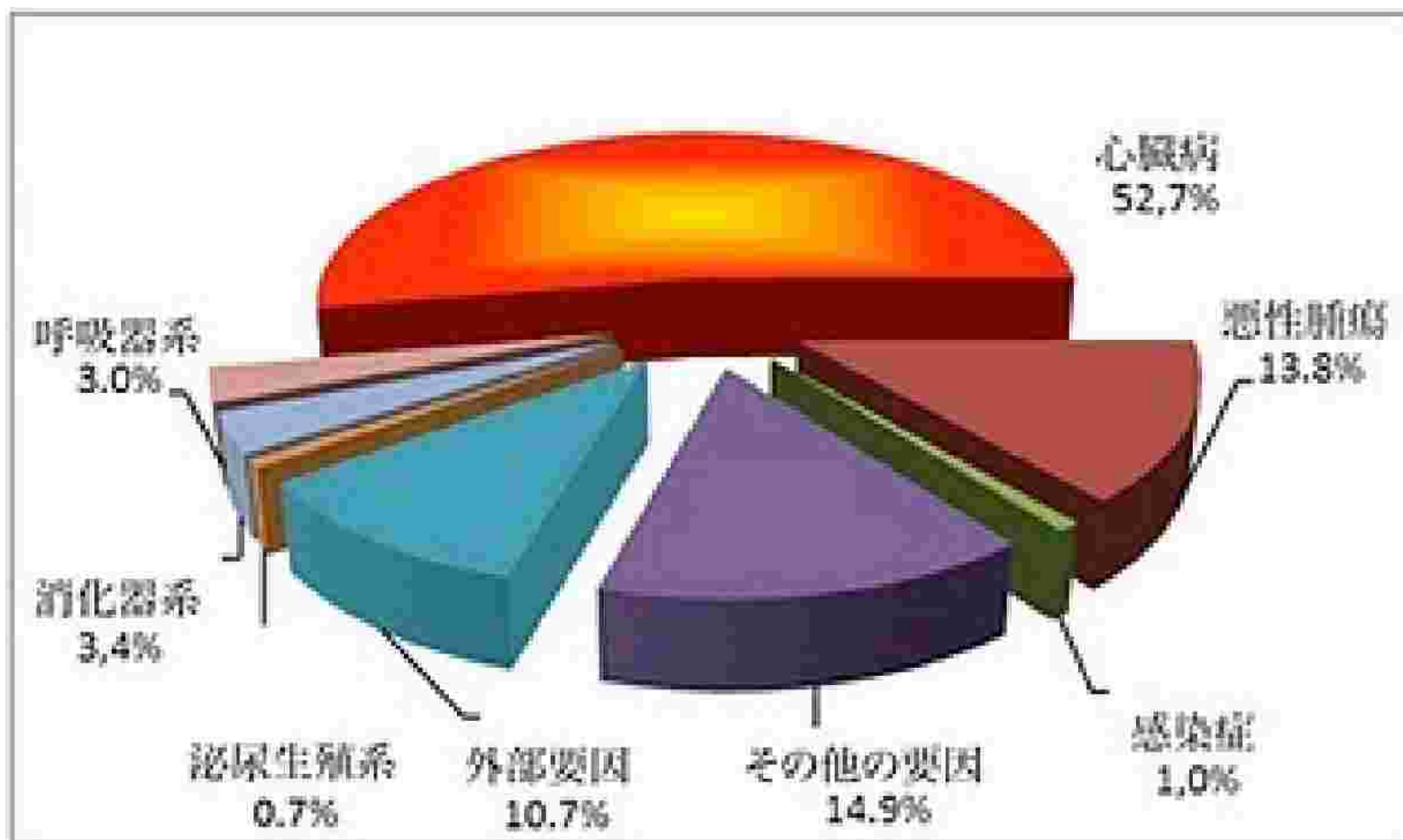
Figure 2

The percentages of normotensive, hypertensive, and hypotensive children at study entry are shown. Group 1: low radio-contamination (n = 33; <5 Bq/kg BW); group 2: moderate radio-contamination (n = 31; 38 ± 2.4 Bq/kg BW); group 3: high radio-contamination (n = 30; 122 ± 18.5 Bq/kg BW).

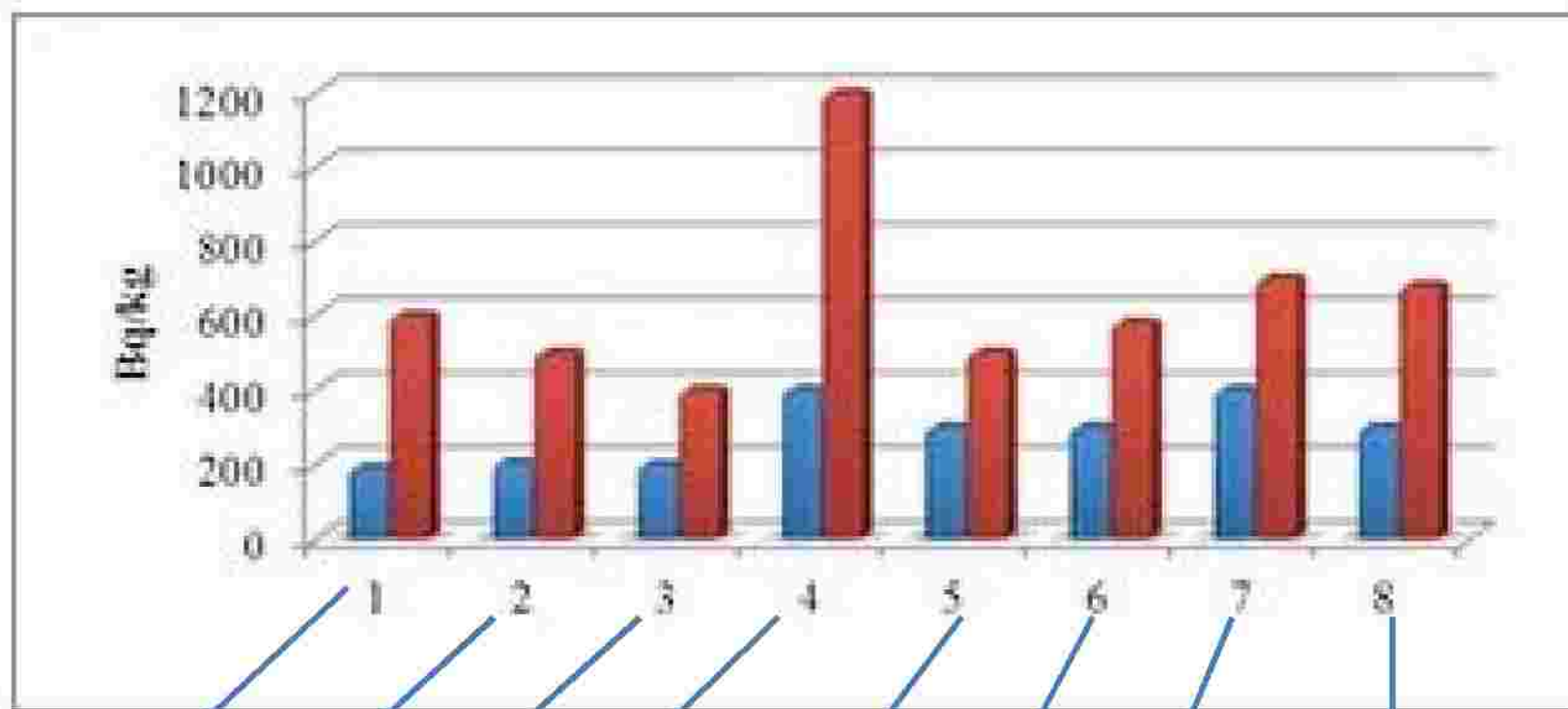


出典：
SWISS MED WKLY
2004;134:725-729

バンダジェフスキー チェルノブイリの死因



バンダジェフスキー 臓器別セシウム137含有量



キー: 1-心筋, 2-脳, 3-肝臓, 4-甲状腺, 5-腎臓, 6-脾臓, 7-骨格筋, 8-小腸

1997年及び1998年に行われた Goi 地方住民の死体解剖時の放射測定データによる**成人 (青)**と**子ども (赤)**の臓器別セシウム137含有量

突然死の住民の心筋組織像

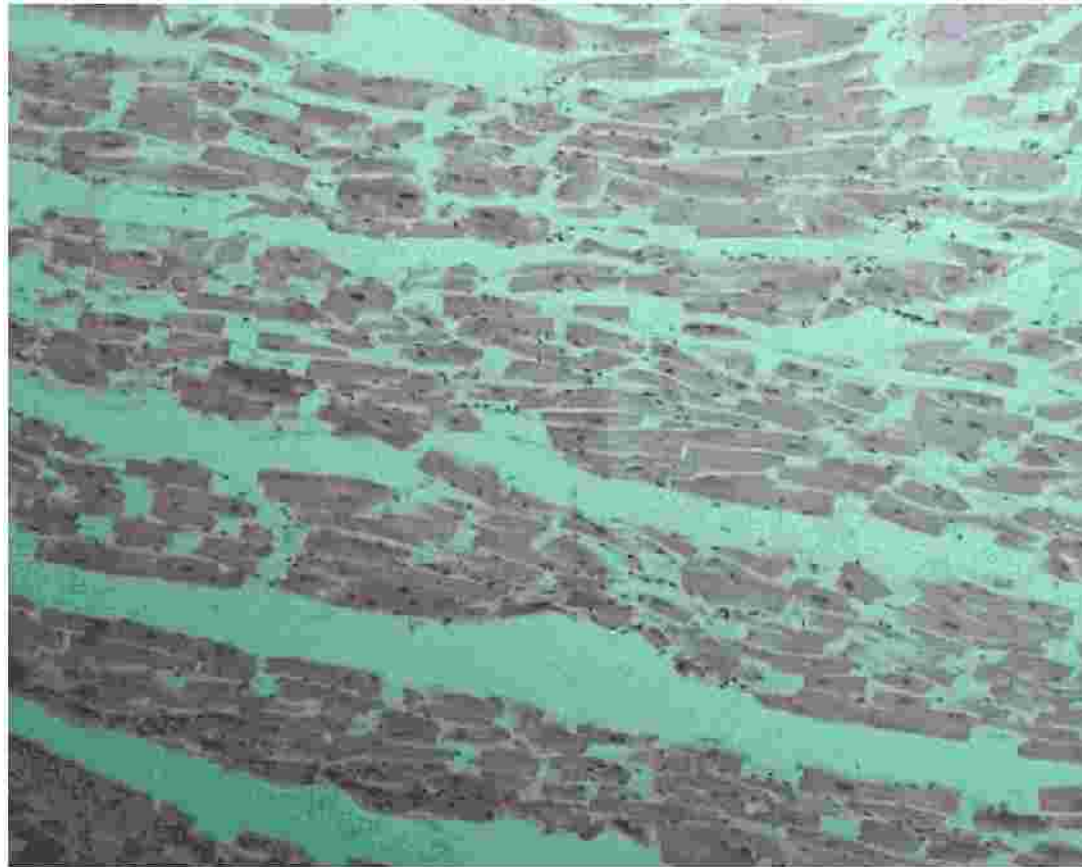


図 2.16- 43 歳のダブルシュの住民の心筋の組織像 (突然死のケース)

びまん性心筋細胞溶解、筋線維間浮腫、筋線維断裂が見られる。HE染色。倍率125倍。

Gueguenの論文

- 文献を調査し、バンダジェフスキーとは全く関係ない人の動物実験の論文
- ラットにCs137を飲料水中に500Bq/kgを3か月間投与
- CKクレアチンキナーゼ(筋細胞に多く存在し、細胞が壊れると高くなる) CK-MB(心臓壊死のマーカー)は、汚染ラットで52%上昇(有意)
- だが、心筋の形態上の変化は、なかった。

Gueguen論文を受けての大山結論

結論 :セシウムを投与したラットの心電図に、

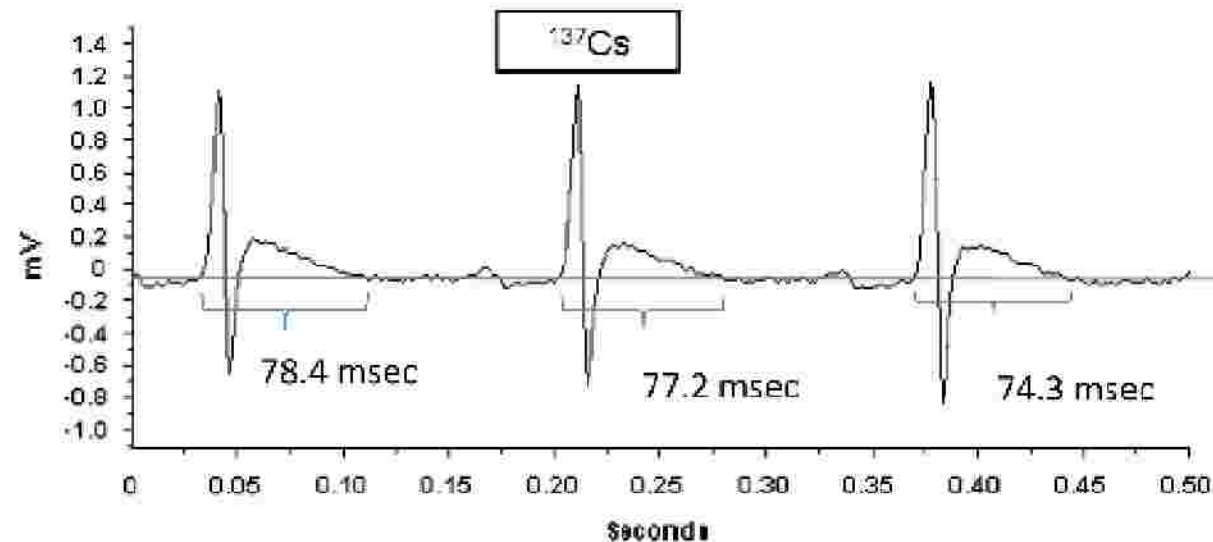
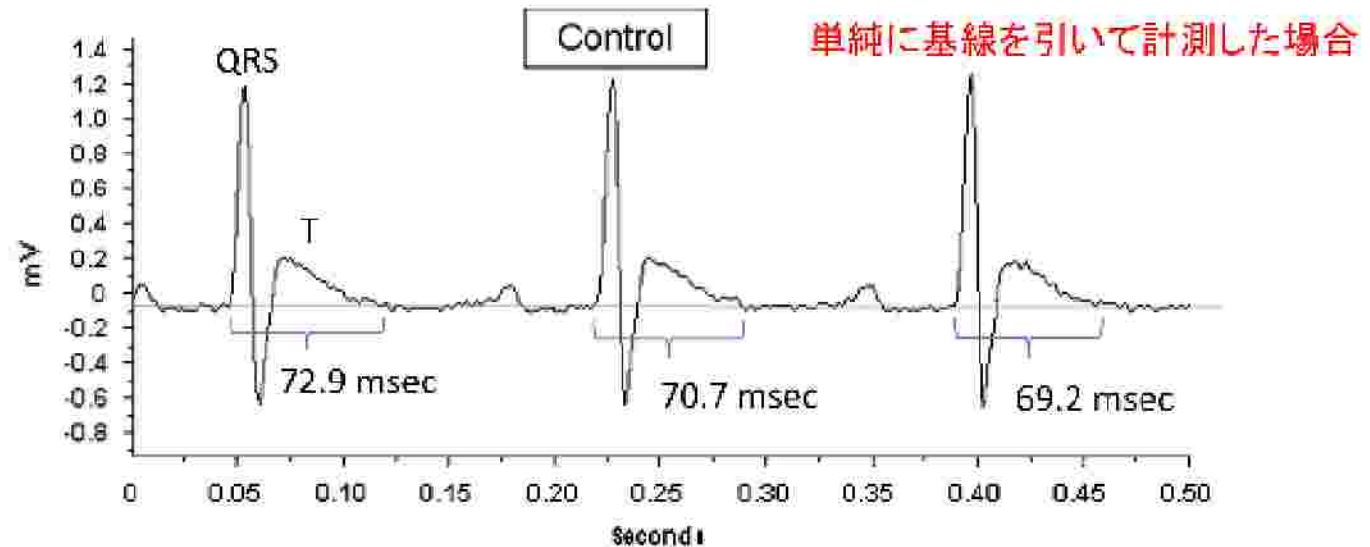
QT時間に変化なし

実際の心電図で確認：

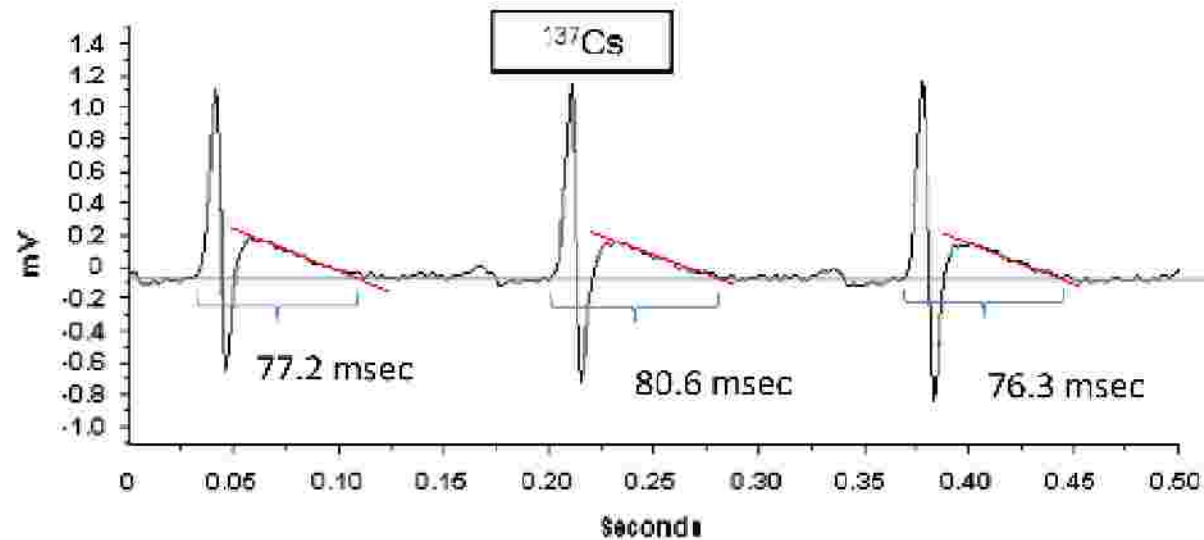
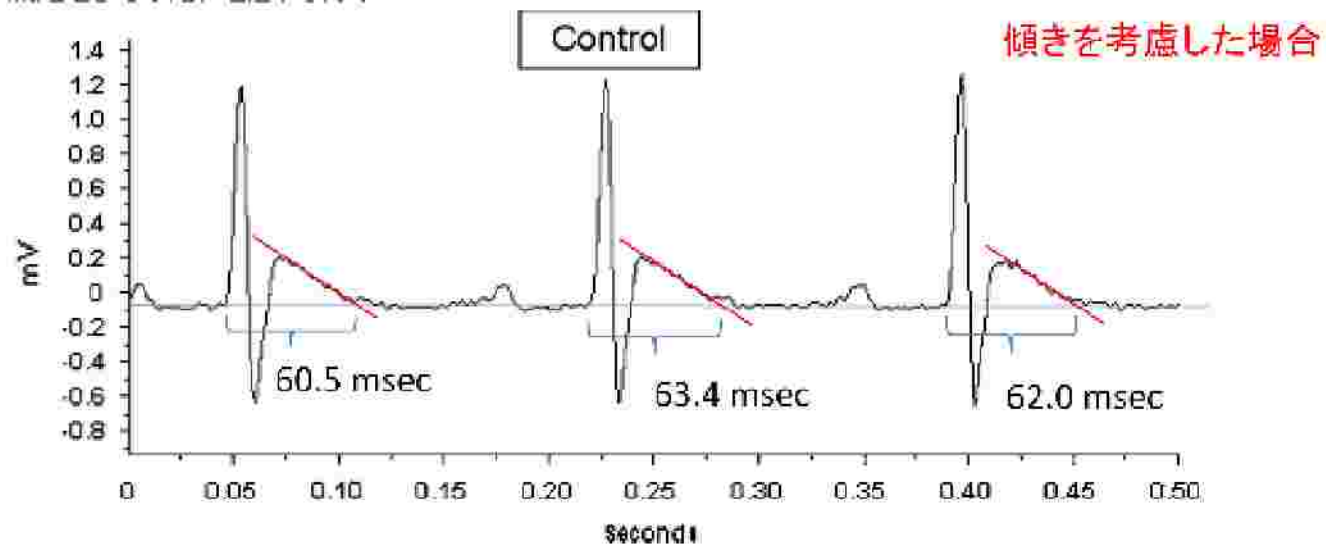
どうみてもQT延長が起きている
のではと思われる(著者)

GueGuenの論文の検証

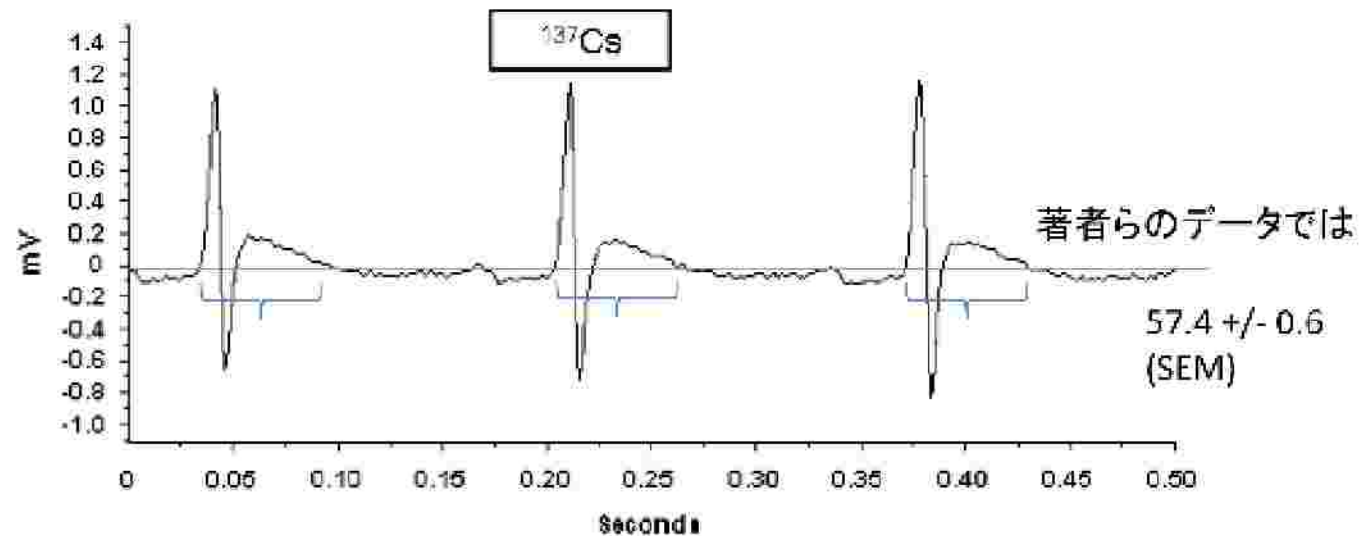
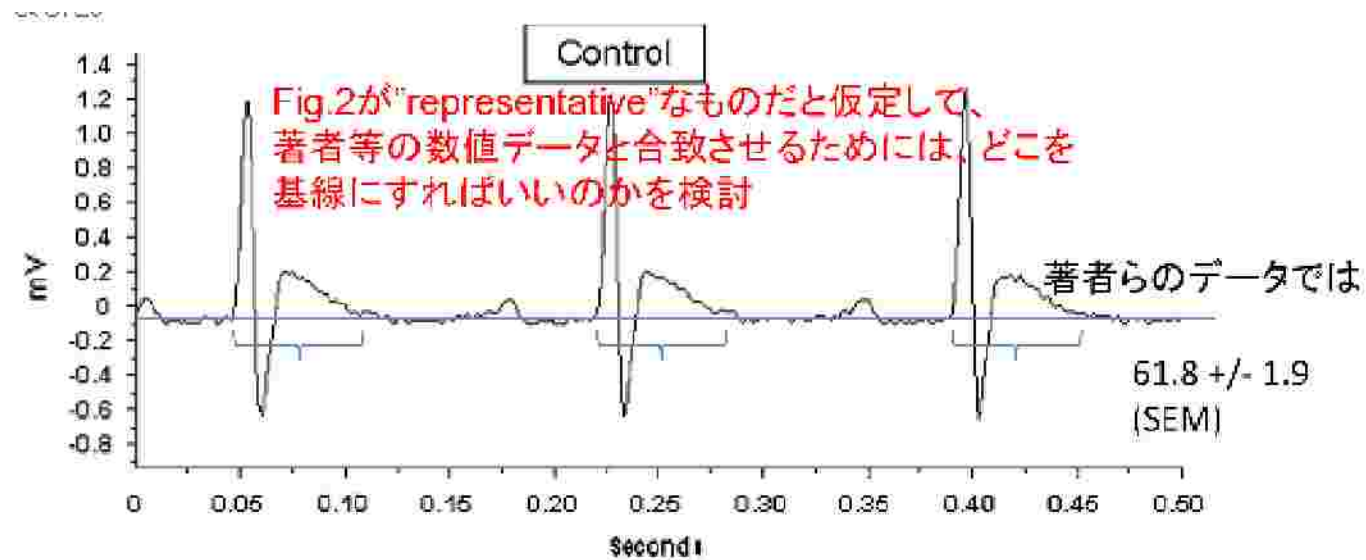
彼は、バンダ
ジェフスキー
の論文を否定
しようとラット
を用いてセシ
ウムの心電図
への影響を観
察。
変化はないと
報告



GueGuenの論文の更なる検証



GueGuenの論文の推定




(以上は他サイトからの転用です。緊急重要事項ということでご理解下さい。論文著者は何も間違った行為はしていません。見る人によって、データの解釈の幅がある、ということを解説しています)

バンダジェフスキー論文の傍証

- GueGuen氏の論文は、報告の結論とは異なり、バンダジェフスキー論文を証明している可能性が大である。
- GueGuen論文が、当初からバンダジェフスキー論文を証明するためのものではなかった事に、却ってその信憑性が感じられる。
- セシウムが心電図でのQT延長症候群と関係している可能性大。

心電図異常とその理由の明確化

- QT 延長症候群とは：
心臓の調律の安全マージンが少なくなっている状態  最悪の場合、突然死
カリウムチャンネルの異常で起こる。
- 子どもや若い人へのリスクを避ける為に、注意喚起したい！

結論

食事、特に主食の米は、10Bq/kg以下を死守